



私の職場は宮古の自然豊かな場所にある。皆さんお気づきでないだろうか？ 最近「飛ぶ新聞紙」とも表現されるオオゴマダラ(蝶)が見られなくなったことを。あれほど飛んでいたオオゴマダラが、今年はまだ一匹も見えない！ 優雅に飛ぶオオゴマダラは、宮古の悠久な時間の流れを感じさせてくれた。そんな宮古ンチュは

う子供らに、「大学に進んで視野を広めて、また宮古に帰って来て、君たちが宮古を良くしたいといかないんだよ」と言っている。私は都会に住んだこと、いろいろな海外を見た

宮古の水と、宮古ファーストの考え方

平良宇東 仲宗根 添 松吉 秀樹

少年化問題について見識を保持していた。その原因がネオニコの可能性が高いのではないのか？と

経験がありながら、現在宮古を終(つい)の住み家と宮古を選んだ。それ

5月16日付本紙1面で、脱炭素のシンポジウムの記事が載っていた。同じ面に野菜・果樹生産の出荷協が7億8000万

の現状から9億を目指す」と書かれていた。何度も言うが、8億3000万の脱炭素の予算、このシンポジウムの経費もパネラーの交通費やら宿

まれているのか？ なぜ、ミッパチやオオゴマダラが消費していくのか？ 8億3000万の予算があるなら、より詳しい水質検査や、ネオニコを使わない農薬使用への補助金に使ったかどうか？ 宮古

市民の福祉に使うべきではない。市民はきつと納得するだろう。こんな素朴な意見を宮古の若者が、毎年の島を守るために声を上げられる環境であってほしい。宮古を「実出た子供たちが、ナイキ企業に堂々と誇り合える、NOと答える島」にならないと、若者にとっても仕方ない！ 魅力の

ていすう気がする。